

刊行にあたって

本ディスカッションペーパーは、京都大学地域研究統合情報センター（地域研）が主催したワークショップ『世界のエスキス―地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す―』（2013年4月27日、京都大学稲盛財団記念館）の記録です。

地域研は2006年に設立されて以降、地域を横断した相関型地域研究の推進、地域に関連した情報資源の共有化システムの開発・整備、情報学を応用した「地域情報学」を推進してまいりました。とりわけ近年は、世界各地で起こる災害対応や紛争解決を目指した地域研究に力を入れており、その中で、文字資料に加え、非文字資料が物語る地域のオリジナリティや課題の重要性に注意を払ってきております。

例えば、現実发生过っていた事実というのは、文字で記された歴史よりはるかに多くの人々や情報の裾野を持っており、その構造も非常に多層的です。しかしそれを知る術となると非常に限られています。こうした限界を超え、欠落を補っていくためにも、非文字資料分析は、文字資料に足場を置いた研究に積極的に付け加えていくべきものであるでしょう。しかし、その蓄積は浅く、それらをより多角的に分析できる情報学のノウハウなどを駆使しながら、どのように扱っていくかという点に関しては、いまだ様々な検討の余地があることは事実です。

以上のような背景があるわけですが、積極的に捉え返せば、これは魅力的な研究のフィールドが広がっているということでもあり、世界各地域を対象とするスペシャリストがそろった地域研こそが挑戦すべき、非常に重要な課題でもあるでしょう。もしかすると、これまで見えてこなかった地域の特徴が、非文字資料を扱うからこそ見えてくるということもあるのではないかと期待してもいます。そして非文字資料の具体的なカタチを対象とすることで、具体的な地域のありよう、地域の具体的な過去や未来を考えることに繋がっていくはずだと。こうした経緯から、本ワークショップは構想されました。

本ディスカッションペーパーは、発表された五つの課題と総合討論から構成されています。総合討論では、地域研究者の川喜田敦子先生（中央大学）、ランドスケープ・デザイナーの石川初先生、映画監督の深田晃司先生から順に貴重なコメントを頂きました。合わせて掲載させていただきます。

最後になりましたが、コメントを下さった川喜田先生、石川先生、深田先生、そしてご参加頂いたすべての方に、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。非常に充実したワークショップの内容が、本書を通じてみなさまのお手元にお届けすることができれば幸いです。そして、さらなる地域研究の発展につながるように、今後ともみなさまのご指導・ご鞭撻、何卒宜しくお願い致します。

林 行夫（京都大学地域研究統合情報センター・センター長）

谷川竜一（京都大学地域研究統合情報センター）